

結成3年目、二十一世紀革新懇運動発展の一翼担って奮闘しよう

みなさん！

私たちは今日ここに、「大阪損保革新懇」第3回総会を多くの仲間の出席のもと開催できたことをお互いに喜び合いたいと思います。私たちは一昨年10月、この会場で結成総会を開催しました。全国で520番目、大阪では87番目の「革新懇」でした。

1980年から革新懇運動が提唱されて以来20年、現在すべての都道府県と地域・職場に663の組織が多様な活動を展開しています。この2年間で全国に140を超える組織が誕生し、様々な分野で活動を開始していることは、革新3目標実現を願う同じ仲間として頼もしい連帯感を感じます。しかし同時に、私たちを取り巻くますます厳しい情勢を見る時、一層の革新懇運動の広がり強化の必要性を痛感します。

昨年の第2回総会の直前、第一勧銀・富士・日本興銀の経営統合に向けた金融持ち株会社の設立が明らかになり、去る9月29日、この3行の「みずほ」持ち株会社が発足しました。来々4月にはさらに4つの巨大金融グループも誕生します。「みずほ」グループは経営ビジョンのなかで「人員削減7000名」を打ち出していることは効率化推進の目的がどこにあるかを明確にしています。生保では日産生命・東邦生命に続き、今年は第百生命・大正生命が破綻し、今週に入って9日千代田生命の破綻も明らかになりました。昨年の「品川講演」は「これから損保でも何が起きるか分からない時代だ」と前置きされ、日本経済の現状と打開の方向とこれからの損保産業のありかたについて分かりやすく、具体的に提言されたものでした。

まさに「品川講演」から1年、損保業界でも講演直後、「日本火災・三井海上・興亜火災」三社の統合が発表され、その後の三井海上の離脱と「三井海上・住友海上」「千代田火災・大東京火災」「同和火災・ニッセイ損保」「富士火災・A・U」、最近では「安田火災・第一生命」「東京海上・日動火災・朝日生命」の統合・合併・業務提携などが明らかになり、一方5月には第一火災が業務一部停止という事態が生じています。

このような損保業界再編成の急激な展開をだれが予測したでしょうか。このような情勢のもとで損保に働く者の不安と動揺が広がっていますし、代理店も同様です。みなさん！

いま、すべての損保経営者は危機感をあおり、企業の生き残りを強調し、組織・店舗・賃金・臨給・物件費・人事諸制度・労働時間などすべての面での「効率化」「合理化」を強行しようとしています。この1、2年、いくつかの会社で希望退職募集が強行され、多くの仲間がこの産業から去っていきました。私たちの身近にもその仲間がいます。

私たち「大阪損保革新懇」は、結成総会アピールと昨年の第2回総会アピールで二度にわたって革新懇と労働組合との関係について、「私たちは、損害保険のすべての労働組合と組合員が損害保険で働くすべての人たちの雇用と労働条件を守り、損害保険の民主的な発展に努力・奮闘されるよう協力・共同していきます」という方針を確認しています。いま、損保の大型合併・統合のもとで損保で働く者の不安と動揺が広がっています。第一火災に働く全損保第一火災支部・全損保第一火災外勤支部の仲間は「全従業員雇用と生活を守れ」「契約者・代理店に犠牲転嫁するな」と闘っています。私たちは第一火災の仲間の闘いを支持・支援します。

このような時、全損保日本火災支部執行委員会は何の前触れもなく、職場の民主的な討論もなく、突然全損保脱退を決め、臨時支部大会で決議しようとしています。これに対し早く、現日火支部執行委員有志と元日火支部専従経験組合員有志11氏は「日火支部に民主的な運営を求める有志の会」声明を全国の仲間に出し、また現執行部で組合民主主義による支部執行委員会の運営を訴える専従3氏も「すべての組合員が事実に基づいた冷静な判断を行ない、民主的討論を重ねて職場から意見を述べることを訴えます」という緊急声明を全国の仲間に出しました。いま、日本火災の職場から①唐突な全損保脱退提案を白紙に戻してほしい。②合併にともなうあらゆる労働条件・雇用・生活が守れる労働組合が必要だ。③従業員の民主的討論が保証されること。これらの声があり始めています。私たちは今日の損保労働者と労働組合がおかれている情勢を考える時、一層労働組合が原点に立ち返り、力一杯奮闘することが求められている時代であり、有志の会のみなさんの呼びかけに賛同するとともに、これら職場の仲間の声に、支持・支援を送るものです。

私たちは、革新懇運動に参加してまだ日が浅い組織ですが、二十一世紀の日本の「平和・民主主義・生活向上」の革新3目標をめざす革新・民主勢力の一員として奮闘しようではありませんか。

2000年10月13日

二十一世紀の平和・民主主義・損保の民主化をめざす